

オートサロン2023の会場で話題になった「3Dプリンター」による最先端の部品開発技術。宇宙開発の世界では当然、モータースポーツの最高峰カテゴリー「F1」の世界でも、数多くの金属部品が3Dプ

リントで開発製作されている。今その新技術は、もはや最先端カテゴリーだけではなく、様々な分野への普及検討が始まっているようだ。オートサロン2023では、NTTデータ・ザムテクノロジーズが、シ



オートサロン2023の会場で、大きな話題となったCR110レーシング。当時の活躍を知るベテランだけではなく、若年層にもオーラを放っていたのは確実だ。

金属粉末を積層し部品製作する「3Dプリンター」技術 最先端の技術はレトロバイクのパーツへも応用可能

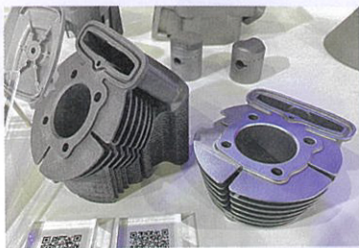
タイヤ・モータースポーツのブースに併設出展。四輪ドリフト選手権用車両には、NTTデータ・ザムテクノロジーズと共同開発された金属3Dプリンターパーツが数多く組み込まれていた。アルミ製インテークエアボックス、複雑な取り回しのチタン製エキゾーストマニホールドも3Dプリンター製である。

また、アルミシリンダーを3Dプリンターで製作したホンダカブレレーシングCR110も展示。このCR110は、すでにサーキットイベントで実走行済。素晴らしいメガホンサウンドを轟かせて走るマシンは、多くのエンタラントを魅了させた。

「3Dプリンター技術は、プロトタイプの開発や少量・小ロット製造のためだけの技術ではありません」と語る同社の開発スタッフ。アルミはもちろん、チタンでもマグネシウムでも、部品製作に関する技術的なハードルはすでに越えているそうだ。今後は、製造コストとの折り合いになるのだと思うが、技術の普及によつて2輪4輪を問わず、数多くのヒストリックカーやクラシックバイクが実働状態で蘇り、20世紀の技術遺産を後世に伝承して欲しいものである。



今後の展開は模索中のようなが、こんな素晴らしい技術が、絶版バイク部品の世界でも幅広く普及すれば素晴らしい世の中になる!? NTTデータ・ザムテクノロジーズ社に注目!!



3Dプリンターで積層した直後の状態と製造工程のサポートを除去した状態のシリンダーパレル。ガラスビーズショットでシリンダー表面はアルミ地肌らしい輝きを放つ。



シバタイヤ・モータースポーツのドリフト選手権マシンに搭載されるツインカムV6エンジン。様々なパーツが金属3Dプリンターで開発製造されている。



「せっかくチャレンジするのなら最高峰モデルで!!」との提案から開発が進められた3Dプリンターによるアルミ製シリンダー。素晴らしいサウンドでレーシングコースをすでに周回している実績のエンジンだ。